

一般調査報告書

アジア最大級のスタートアップイベント『S-Tron Shanghai 2025』参加報告

1 S-Tron Shanghai 2025 の開催概要

愛知県では、清華大学（北京市）関連組織の Tus ホールディングス、上海交通大学（上海市）、浙江大学（杭州市）等と連携し、県内スタートアップの中国展開支援や日中間でのイノベーション創出を目指す「Aichi-China Innovation Program」を実施しています。今回、その一環として、上海交通大学と共同で、上海市で開催された「S-Tron Shanghai 2025（中国語名：S 創上海 2025）」に共同ブースを出展しました。本レポートでは、当該展示会の概要等について報告します。

S-Tron Shanghai 2025 は、2025 年 9 月 23 日～24 日に上海市の西岸芸術センターA 館で開催された、アジア有数のテック・イノベーションイベントです。もともとフィンランド発のスタートアップイベント「Slush」の中国版として 2015 年に初開催され、2022 年のブランド名の刷新以降は主催者「S-Tron China（中国語名：S 創中国）」のもと毎年上海で開催されています。2025 年は 10 周年の節目に当たり、テーマを「此刻即未来（今この瞬間が未来）」とし、上海市が推進する「海聚英才サミット（グローバル起業家サミット）」の一環として過去最大規模で実施されました。

(1) 来場者数と参加者構成

主催者発表によれば、2 日間で延べ 1 万 3,000 人超が来場し、スタートアップ企業 2,700 社超、投資機関 3,500 社超、投資家 3,000 人超が参加しました。来場者の約 35%は海外からで、参加は 40 超の国・地域に及びました。中国の有力ベンチャーキャピタルや大手企業、新興企業の経営層に加え、各国のスタートアップ支援機関、大学・研究機関、メディア等が一堂に会し、中国国内でも屈指の国際的スタートアップ交流の場となりました。運営面では、約 1,000 人のボランティア（主に地元大学生）が参加し、展示会運営を支えました。

(2) プログラムと内容

会場では、企業ブース展示のほか、基調講演、パネルディスカッション、ピッチコンテスト（スタートアップのプレゼンテーション競技）、ネットワーキングイベント等が並行開催されました。70 以上のトークセッションに 200 名超のスピーカーが登壇し、テーマは人工知能（AI）、バイオ医薬、新エネルギー、先進的製造技術（スマート製造）など多岐にわたりました。ピッチコンテストには 60 社が参加し、企業の成長段階に応じて「初期企業」「成長企業」「ユニコーン候補」の各カテゴリで実施され、各カテゴリの受賞企業にはスポンサー企業からの特典が授与されました。登壇企業は中国国内に限らず、米国、英国、オーストラリアなど海外スタートアップも含まれ、国際的な視点から最先端の製品・サービスが紹介されました。加えて、国際イノベーション交流ナイト、投資家向け朝食会、イブニングネットワーキング等、期間中を通じて交流機会が継続的に設けられ、来場者が終日途切れずに交流できる環境が整備されました。

(3) 展示会の位置づけ

現在の S-Tron Shanghai は、中国におけるスタートアップ支援イベントとして最大級であり、2015 年の初開催以降、規模・国際性は年々拡大し、2016～2019 年には「Slush Shanghai」として毎年開催されてきました。その後、コロナ禍を経て 2022 年にブランド刷新が行われ、「S-Tron Shanghai」として再始動しました。2025 年展示会は 10 年の集大成として、アジア最大級・最先端のスタートアップの祭典へと発展した姿を内外に示したと評されています。主催者である S-Tron China 総裁・宋宇辰氏は、「来場者の約 35%が海外からであり、S-Tron Shanghai は真に国際的なイノベーション交流プラットフォームに発展した」と述べています。なお、次回展示会（S-Tron Shanghai 2026）は 2026 年 9 月 22～23 日に開催予定と発表されており、今後も本イベントを通じた日中を含むアジア地域のスタートアップ交流の一層の進展が期待されます。



写真 1：会場の様子（2025 年 9 月／主催者提供）



写真 2：会場の様子（2025 年 9 月／主催者提供）



写真 3：会場の様子（2025 年 9 月／主催者提供）



写真 4：会場の様子（2025 年 9 月／主催者提供）

2 S-Tron China の概要とイベントの歴史

(1) 沿革

中国で初めて Slush ブランドのスタートアップ展示会が開催されたのは 2015 年のことで、北京での初開催を経て翌 2016 年から本格的に「Slush Shanghai」がスタートしました。2016 年・2017 年はいずれも上海市内で開催され、参加者数は毎年約 5,000 人規模でしたが、中国の起業ブームがピークに達した 2018 年展示会では主催者発表で延べ約 1 万 2,000 人が来場し過去最大規模に達したと報じられています（会場面積 1.2 万平方メートルに 5 つのプレゼンエリアと展示・商談エリアを設置、800 人の学生ボランティアが運営に参加）。しかし 2019 年以降、中国国内のインターネット産業に対する規制強化や新型コロナウイルス禍の影響もあり、スタートアップ熱は一時減速を余儀なくされました。Slush Shanghai も 2020 年・2021 年は開催規模の大幅縮小やオンライン化を余儀なくされます。そして 2022 年、主催者はブランド刷新を決断し、Slush China は中国発の独自ブランド「S-Tron China」へと変わりました。以降、上海での旗艦イベント「S-Tron Shanghai」は再スタートを切り、さらに北京・深圳・厦門・南京・揚州など中国各地での地方版 S-Tron イベントや、年間を通じた定期的なテーマ別ピッチシリーズも展開する総合プラットフォームへと進化しています。2025 年時点で S-Tron China は累計 10 以上の大型テック・カンファレンスを開催し、延べ 3 万 5,000 人以上のテック人材と 4,000 社以上のスタートアップを動員してきました。この実績が示す通り、S-Tron は名実ともに「アジアを代表するテック&スタートアップイベント」として確固たる地位を築いています。

(2) 特徴

S-Tron の大きな特徴は、その国際性と多元性にあります。当初は中国国内向け色の強かったイベントも、現在では海外からの参加者・登壇者が大幅に増加し、公式言語は英語と中国語のバイリンガル対応となっています。実際、2025 年展示会では参加者の約 30% が国外からであり、実質バイリンガル・マルチリンガルな交流の場となりました。また扱うテーマも AI やグリーンエネルギー、バイオ医薬など国家的に重要視されるハードテック分野を中心に、デジタルエンターテインメントやソーシャルビジネスまで幅広く網羅しています。中国政府のスタートアップ振興政策とも連携しつつ、民間主導で柔軟にテーマ設定が行われる点も S-Tron の強みです。さらに投資マッチングの先進性も見逃せません。イベント内には AI マッチメイキングシステムが導入されており、事前にオンライン上でスタートアップと投資家の興味関心を分析して最適マッチングを提示、現場での面談に繋げる仕組みが整えられています。単なる展示会に留まらず、テクノロジーを駆使して効率的な交流・商談機会を創出できる場となっていることから、参加者からも「最先端の出会いの場」と高く評価されています。

(3) 歴史的意義

Slush/S-Tron の歩みは、この 10 数年の中国スタートアップ・エコシステムの発展と軌を一にしています。中国では 2010 年代後半にベンチャー投資額が急増し、2021 年に約 1 兆 4,228 億元（約 28 兆 9,000 億円）と過去最高を記録して米国に次ぐ世界第 2 位のスタートアップ大国となりました。しかし 2019 年以降は規制環境の変化やコロナ禍の影響でスタートア

ップ熱は一時減速を余儀なくされました。それでも S-Tron Shanghai は国内外のイノベーターが集う場として継続開催され、中国政府も『大众创业・万众创新』（大衆起業・万人イノベーション）政策の一環として同イベントを支援してきました。事実、S-Tron China は 2015 年以降、中国各地の数千件に及ぶテックプロジェクトと資本のマッチングを実現し、中国において次世代の起業家を成功に導くプラットフォームとして機能していると評価されています。その結果、S-Tron Shanghai には日本を含む海外からも政府・企業関係者の視察が相次ぐようになりました。総じて、S-Tron の発展の歴史は中国スタートアップ・エコシステム躍進の歴史と表裏一体であり、今後の動向も国内外の関係者から注目されています。



写真 5：会場の様子（2025 年 9 月／主催者提供）



写真 6：会場の様子（2025 年 9 月／主催者提供）

3 愛知県のスタートアップ支援戦略と国際展開

(1) 愛知県のスタートアップ支援戦略

愛知県は 2018 年 10 月に「Aichi-Startup 戦略」を策定し、あいちスタートアップ・エコシステムの形成を県政の重点施策に据えました。その中核プロジェクトが、日本最大のスタートアップ支援拠点となる「STATION Ai（ステーションエーアイ）」の整備・運営です。2024 年 10 月にオープンした STATION Ai は単なるオフィス提供に留まらず、スタートアップの創出・育成・展開・誘致を図るとともに、本県モノづくり企業等とのオープンイノベーションを促進しています。

愛知県独自の支援策として、人材育成の分野では、起業を志す社会人や学生を対象に、ビジネスプランの策定やピッチスキルの習得を目的とした実践型ワークショップを提供しています。さらに、学生向けのアントレプレナー教育プログラム「AICHI STARTUP SCHOOL」を小・中・高校生を対象に展開し、若年層からの起業マインドの育成にも取り組むことで、スタートアップの事業成長を後押ししています。

資金支援としては、県独自の起業支援金制度（「あいちスタートアップ創業支援事業費補助金」）を設け、愛知県内で起業する人材に対し創業経費の一部を補助金として交付するとともに、採択者にはメンタリング等の成長支援も提供しています。また、スタートアップ支援フ

ファンドへの出資を通じ、成長段階に応じた資金供給エコシステムの構築にも関与しています。

さらに、地域特性を活かしたオープンイノベーション創出にも注力しています。これにより、自動車産業をはじめ産業集積地・愛知ならではの課題解決にスタートアップの新技术を取り入れる機会を創出し、新事業の芽を数多く生み出しています。

以上の施策群によって、愛知県は全国有数の充実したスタートアップ支援体制を構築しつつあり、あいちスタートアップ・エコシステム形成に向けた取組みを展開しています。

(2) 海外連携・海外展開の支援

愛知県は県内スタートアップの海外市場への挑戦を後押しするため、海外展示会への派遣、現地アクセラレーター（起業家育成プログラム）プログラムへの参加支援、海外大学との連携プログラムなど海外展開に向けた支援策を充実させています。例えば、世界のスタートアップ先進地域の支援機関・大学等とのネットワーク構築に努めており、現在までに9か国・22の海外スタートアップ支援機関や大学との連携のもと、国別の派遣プログラムやグローバル・マッチングプログラムを提供しています。米国テキサス大学オースティン校やシンガポール国立大学、仏スタートアップ支援拠点 STATION F などと海外研修・アクセラレータープログラムへの参加や、海外スタートアップの愛知受け入れなど双方向の交流が行われています。

本レポートの主題である中国・上海における「Aichi-China Innovation Program」もその一例です。愛知県は2019年に清華大学および上海交通大学と相次いで提携し、2023～25年度にかけて県内スタートアップの中国進出支援事業を実施しました。具体的には、前述の S-Tron Shanghai のような展示会へのブース出展支援と、中国最大級のテックメディア 36Kr と連携した現地ビジネスマッチングイベントへの参加をセットにし、中国市場開拓を目指す県内スタートアップを公募・選抜しています。S-Tron Shanghai 2025 には、審査で選ばれた県内スタートアップ2社が県のサポートのもと共同ブースに出展し、中国の投資家や大手企業との商談機会を得ました。



写真5：会場の様子（2025年9月／主催者提供）



写真6：会場の様子（2025年9月／主催者提供）

4 おわりに

急速に進化するスタートアップを取り巻く環境の中で、愛知県は海外とのネットワークを広げ、県内スタートアップ企業の新事業創出や海外展開を支援するとともに、海外の革新的スタートアップ企業を積極的に地域に呼び込み、愛知経済の活性化につなげようとしています。その継続的な取り組みにより、愛知発のイノベーションが世界とつながり合い、新たな価値創造のサイクルを生み出していけるよう、今後も継続的に取り組んでまいります。

愛知県上海産業情報センターでは、こうした中国現地の最新動向や取り組み成果について、今後も継続して情報発信を行ってまいります。

【最近の中国内の主な動き】

9月12日 AI エージェントが続々登場 コーヒー注文や飲食店予約も

中国ネットサービス大手が、人工知能（AI）を使った生活サービスを相次ぎ投入している。AI アシスタントに話しかけるだけでコーヒーの注文から支払いまで済ませたり、飲食店選びと予約を任せたりと幅広いサービスを提供する。AI が日常生活に溶け込み始め、人間の仕事を代替する「AI エージェント」の導入が進む中、「生活の質（QOL）が高まる」と好意的な見方が消費者の間で広がっている。

9月17日 若年層の失業率が2023年12月以降で最も悪い水準、8月

中国国家统计局は17日、8月の若年層（16～24歳）の失業率が都市部で18.9%だったと発表した。学生を除く算出方法を採用した2023年12月以降で最も悪いの水準となった。大学など学校卒業後に就職できないケースが増えているとみられる。

9月23日 25年の中国成長率4.9%に上方修正、OECD

経済協力開発機構（OECD）は23日発表した最新の世界経済見通しで、中国の2025年の経済成長率を前年比4.9%と予測した。6月の前回予測から0.2ポイント引き上げた。政府支出のペースが加速し、不動産市場の調整やトランプ米政権の関税政策による逆風の影響を抑えていると指摘した。

【参考文献】

日本貿易振興機構 <<https://www.jetro.go.jp/>>（2025年10月10日閲覧）

新浪财经<<https://finance.sina.com.cn/>>（2025年10月10日閲覧）

騰訊新聞<<https://news.qq.com/>>（2025年10月10日閲覧）

中国日報<<https://tech.chinadaily.com.cn/>>（2025年10月10日閲覧）

新媒网<<https://nmedialink.com/>>（2025年10月10日閲覧）

搜狐<<https://www.sohu.com/>>（2025年10月10日閲覧）

投資界<<https://news.pedaily.cn/>>（2025年10月10日閲覧）

Bloomberg <<https://www.bloomberg.com>>（2025年10月10日閲覧）

本資料は、上海産業情報センターが、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。